

中山 11

発走 15:35

第57回京成杯(別定)

賞金 2000

1.57.8

ラブリディ 57F

今回推定タイム 良 2.01秒台 重 2.03秒台

成績の見方 ①場所(馬場状態)月日 ②競走名 条件 着順 ③距離 ④体重 ⑤負担重量 騎手 ⑥頭数 ⑦年齢 ⑧性別 ⑨出走回数

Main race table with columns for race number, horse name, jockey, weight, and performance data.

①ホープフルSと葉牡丹賞 マイネルフェニーチェはホープフルSでレイデオロから0秒2差と健闘。シュニコノ騎手の好騎乗(イン突き)が光り少し上がり要した芝・展開

も合ったか。過大評価は危険とはいえず上位の一角は確かな。脚が同じになったが、最後でコース(大外)を考慮すれば②着馬との力差はない。

②別路線の有力馬 芝千六 22.236 芝二千 8.4624 芝三千 6.2400 芝四千 6.2400

産駒は先週時点までで距離別芝千六 22.236 芝二千 8.4624 芝三千 6.2400 芝四千 6.2400

本紙の見解 素質上位サイベラージュ デビュー戦が庄勝のサイベラージュ。直線追い出しの反応は鋭く、後続に一気の3馬身半差。脚力から中山二千も裕があり、素質は一流。血統・レースぶりから中山二千も歓迎材料で、重賞でも通用すると判断。中間の稽古内容は抜群で、デキ自体もさらに向上している。地方強化目立つマイネルスフェーン、好仕上がりイブキが相手。[上位拮抗]

柏木の複連 土曜の菜の花賞1600mを回避し、強気に男相手の2000mに挑戦。新馬でシヤゴ1が狙える。新馬でシヤゴ1が狙える。新馬でシヤゴ1が狙える。



小木曾大祐

土・日曜日の天気予報には雪マークが。大きな影響が出ない事を祈りつつ…

⑧Rはノーブルサンズ。前走はスタートでアオるロスもありましたが、追い上げ時に内の馬に併せられ、直線入り口では10頭ぶんも外へ膨れるロス。それでも②着馬とはコンマ5秒差。スタミナ重視の中山ダートでは崩れない末脚の持ち主です。

⑩Rはサンタフェチーフ。道中から押さえるのに苦勞するほどの手ごたえで進んだ前走。直線で進路確保に手間取りましたが、ためにためた末脚をラスト1Fで一気に爆発。鋭き満点の末脚は強烈なインパクト！休養と転厩が良い結果につながり気配一変。勢いに乗って連勝の期待、単勝から狙っていきます。

中山芝2000m

キツ	10	438	276	252	201	195	189	186	184
ツキ	11	438	276	252	201	195	189	186	184
率	12	438	276	252	201	195	189	186	184
メ	13	438	276	252	201	195	189	186	184
①	14	438	276	252	201	195	189	186	184
②	15	438	276	252	201	195	189	186	184
③	16	438	276	252	201	195	189	186	184
④	17	438	276	252	201	195	189	186	184
⑤	18	438	276	252	201	195	189	186	184
⑥	19	438	276	252	201	195	189	186	184
⑦	20	438	276	252	201	195	189	186	184
⑧	21	438	276	252	201	195	189	186	184
⑨	22	438	276	252	201	195	189	186	184
⑩	23	438	276	252	201	195	189	186	184
⑪	24	438	276	252	201	195	189	186	184
⑫	25	438	276	252	201	195	189	186	184
⑬	26	438	276	252	201	195	189	186	184
⑭	27	438	276	252	201	195	189	186	184
⑮	28	438	276	252	201	195	189	186	184
⑯	29	438	276	252	201	195	189	186	184
⑰	30	438	276	252	201	195	189	186	184

競馬人情 吉川良

学問も度胸もないので、小さな人生だったけれど、生きてくるのに必死だったなあと、じいさんになつて私はときどき思う。せめて自分の武器は、ひとつの話を聞くのが好きだったということかなあ。

電車に乗る。誰もがスマホを見ている。となりに誰がいるのか意識がない。ナルシズム、と私の頭に言葉が浮かぶ。自己陶酔、うぬぼれ、自己愛。

ナルシズム、と私は心で言い、電車に乗っている人を次々と見る。ナルシストは自己陶酔者のこと。さっきまで会っていた50歳の

勝負の一手



郡和之

前走は人気を裏切る大敗を喫したが、息づかいがもうひとつだった。放牧に出してドの手術を施し「稽古では効果は感じる」と既告サイド。体は増えているそうだが、元々腹回りをスッキリ映すタイプだけに問題ないはず。当地では難敵クロフネビームスを退けて現級勝ちの実績が光る。

《成績欄に前半3F時計》

成績欄の通過順の右横に『各馬の前半3ハロン通過時計』を表記しております。各馬のタイム力の比較検討に役立てていただければ幸いです。なお、レースの流れは、馬体重の横に「H」ハイ、M「平均」、S「ロー」のそれぞれマル囲み表記で示してあります。

これぞ！



大川浩史

異例のハンデ53キロ。日経新春杯がハンデ戦になつてから、前走が1000万だった馬は「1128」。前走が1600万だった馬は「56438」。なので見劣りする…ような気がするものの、実は勝率も連対率もそれほど変わらない。

種牡馬コンデュイット

種牡馬コンデュイットへ父ラカニ。ミルリーフ系は、10年から15まで日本で種牡馬生活を送っていたが、母国のアイルランドへ帰っている。

さらにハンデ51キロ以上を詳しく見ていくと、51〜52キロの4歳牡馬は②③①着。52キロの5歳牡馬は③着。54キロの5歳牡馬は⑩⑤着だった。

では、53キロの4歳牡馬シャケトラはどうか。5歳牡馬の54キロと同じなので「見込まれすぎ」とも取れるが、過去に1000万勝ち直後で54キロ背負った2頭はそれまでに重賞で小差があった。ある意味実績通り。重賞初出走の4歳馬が53キロというのは異例中の異例。ハンデキャッパーが能力を認めているわけで、それを信じて本命。

編集長の爪

とどまったが、直線、猛然と伸びて上がり33秒9（10秒台のハロンを含む）の楽勝だった。一本当りにコンデュイット産駒なのかと驚きの声が上がっているほど、素晴らしいシャープだったのである。

輸入したビッグレッドFの代表岡田さんはコンデュイットの不振にがっかりしてあきらめたが、見離されたザグレブがコスモバルクを残したように、ニシノアモールの大活躍はないものだろうか

ニシノアモールが快走したところで、1頭だけ活躍馬が出現したくらいでコンデュイットの種牡馬ビジネスは不正解だったのだが、素晴らしい馬だと期待されたコンデュイットの名譽は取りもどせる。

ニシノアモールの母ニシノナムスメ（父アゲネスタキオン）は、08年のマイラーズC②着を含む4勝馬。その母は桜花賞、スプリンターズS、阪神JFなど「7135」の名牝ニシノフラワー。母方の圧倒的なスピードに、コンデュイットのスタミナが絶妙にマッチした可能性はある。小柄な馬体は心配はない。祖母ニシノフラワーの桜花賞は420ギだった。ミルリーフの父系の特徴も、決して大柄には出ないことだ。〔柏木〕